2025年注目の天文現象

いよいよ新しい年のスタートです。2025年は16年ぶりの土星の環の消失に、3年ぶりの皆既月食と“お久しぶり”な天文現象が観察できそうです。今年注目の現象を紹介しましょう。

土星の環の消失

土星は自転軸が27度ほど傾いているため、地球から見た土星の環の傾きは日々変化しています。また、土星は太陽の周りを約30年周期で公転しているため、その半分のおよそ15年周期で、地球と太陽から環を真横から見られる格好になります。土星の環は本体に対して非常に薄いため、この頃になるとまるで土星の環が消えてしまったかのように見えるのです。

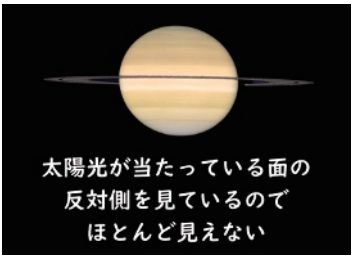
2025年は2009年以来の土星の環の消失を観察できる年となります。まず3月24日に地球が土星の環を真横から見る位置となり、土星の環の消失が起こります。また、5月7日には太陽が真横から土星の環を照らす位置となり、明るい面がなくなることで、環の消失が起こります。その後はしばらく土星の環の傾きがだんだんと大きくなる時期が続きますが、11月末から12月初旬にかけて再び土星の環の傾きが小さくなり、まるで串刺し団子のような土星を観察することができます。2025年は見え方がどんどん変わっていく土星の環から目が離せない1年になりそうです。

注目したい土星の環の見え方

3月24日



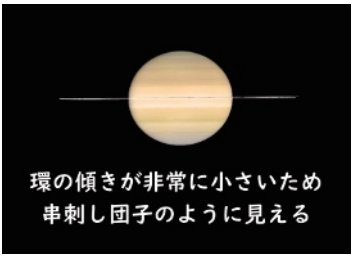
3月25日～5月6日



5月7日



11月末から12月初旬ごろ



（図は全てステラナビゲータ12で作成）

3回も見られるプレアデス星団食

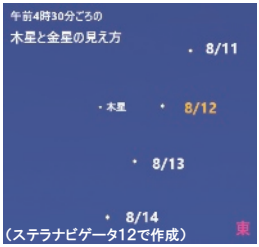
大阪では、8月16日・11月6日・12月31日と、それぞれ夜中から翌日の未明にかけて、月がプレアデス星団を隠すプレアデス星団食を楽しむことができます。その中でも観察におすすめなのは、8月の食です。11月7日と12月31日のプレアデス星団食は満月に近い明るい月との食になりますが、8月は下弦の月で食が起きるので、肉眼でも食の様子を楽しめそうです。



金星と木星の接近

明るい惑星である木星と金星が、8月12日の明け方東の空で満月2個分ほどの距離まで接近します。

明るい2つの星がぎゅっと近づいて輝く様子は、明け方のやや明るい空の中でも目立ちます。スマホのカメラでも撮影しやすいので、前後数日早起きをして木星と金星の位置の変化を記録するのも面白そうです。



9月8日　3年ぶりの皆既月食

月食は、地球の影に月が入りこむことで、月がだんだんと欠けていくように見える現象です。月食の中でも月がすっぽりと影の中に入ってしまうものを、皆既月食といいます。

前回、日本で皆既月食が見られたのは2022年なので、今年の9月8日に起こる皆既月食は3年ぶりに日本全国で見られる皆既月食になります。深夜から未明にかけての現象ではありますが、ぜひ見ておきたい天文現象です。



野村　美月（科学館学芸員）